



## 今週の T2 経済レポート

2021年11月12日号

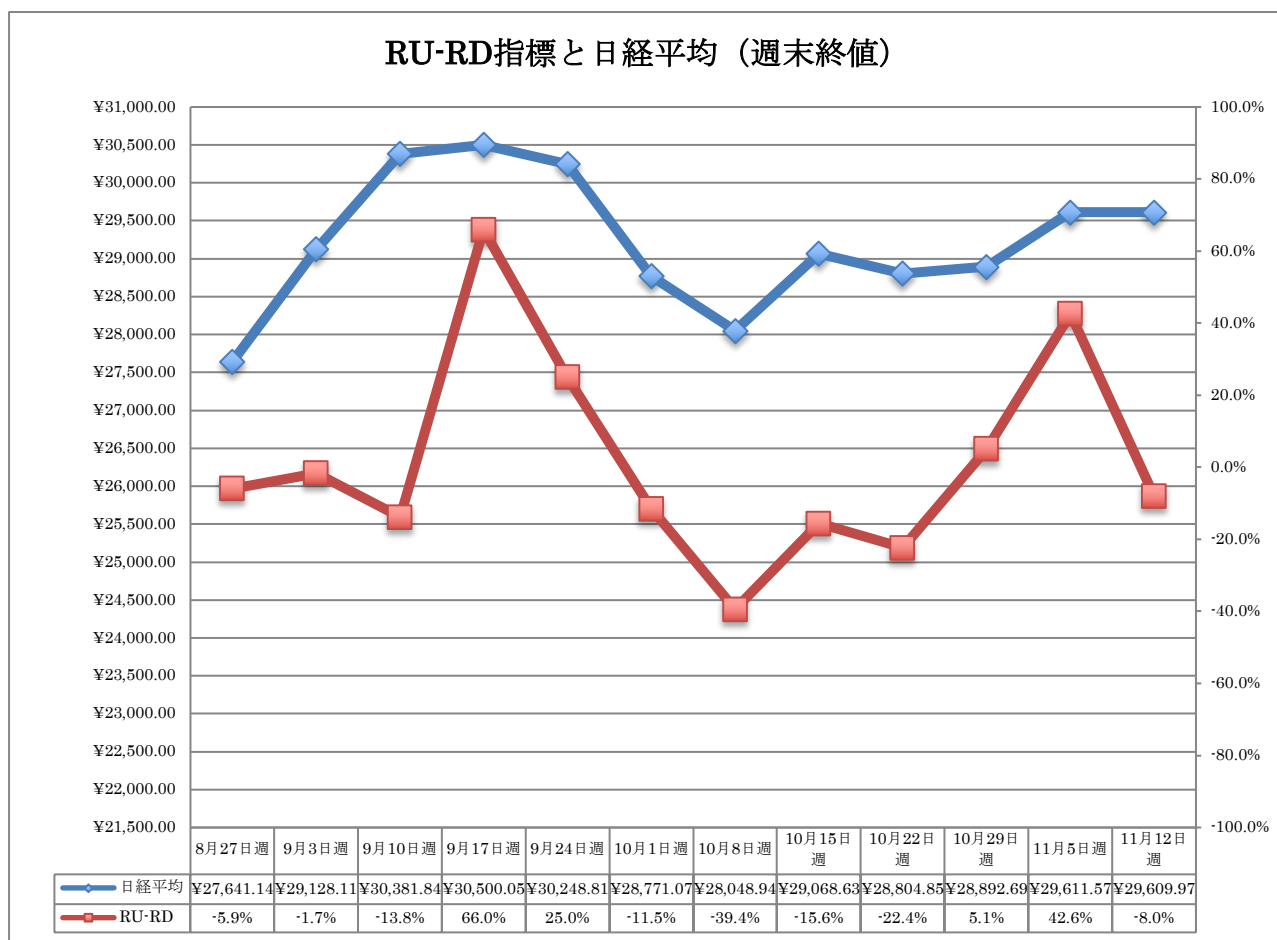
### ■■■ 市場ウオッチ ■■■

#### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整を警戒する週となります。今週(11/8~11/12)の相場を占う『RU-RD 指標』の相場を占う10月29日週が-8.0%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整を警戒する週となります。先週、『「衆議院解散・総選挙」のアノマリーが過ぎ、11月11日にミニSQを控えることから投機筋の外国人がどのような売り仕掛けをするのかに注意が必要な週となりそうです。』と指摘しましたが、特に、今週は注目の物価統計発表が米国で集中することから、その結果を利用しての相場操縦があるかもしれません。さらに来週(11/15~11/19)の相場を占う11月5日週が-35.5%と2週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が予想され、仮に、今週、急落調整を避けられたとしても来週は要注意ということになります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年10月1日週-14.3%→10月8日週-24.3%→10月15日週-27.1%→10月22日週+5.7%→10月29日週+1.4%→11月5日週-8.6%と、3週間振りにマイナス圏に陥っています。前の週に日経平均が+700円以上の大幅高となったにも関わらず、同指標が「3週間振りにマイナス圏」に陥ったことは先物主導の株価操縦で上昇が行われている証拠と言えそうです。先週、『今後は『自民党は選挙前の276議席から減らしたものの、単独で国会を安定的に運営するためのいわゆる「絶対安定多数」の261議席を確保』の今回の選挙結果を消化する相場が多少続くものの、その後には先送りされてきた『同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込む近未来』が待っていることを忘れないことです。』と指摘しましたが、このまま「-40%以下の下限ゾーン」に向けて下落するのか、それともこれまでのように0%前後で再び行ったり来たりするのか。これまでは「衆議院解散・総選挙」のアノマリーで株価を下落させないような買い支えが行われていたことで同指標は「-40%以下の下限ゾーン」目前で下げ止まっていましたが、「選挙相場」終了でそれがどのように変化するのが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、11月8日に9月景気動向指数、9日に9月毎月勤労統計、9月貿易収支(国際収支ベース)、10月景気ウォッチャー調査、10日に10月工作機械受注、11日に10

月企業物価指数、10月東京オフィス空室率、一方海外で、11月9日に10月生産者物価指数(PPI)、10月消費者物価指数(CPI)、10日に週次新規失業保険申請件数、11日に英・GDP(7-9月)、12日に11月ミシガン大消費者信頼感指数などが予定されています。10日発表の米10月消費者物価コア指数(CPI)は前年比+4.3%と、9月実績の+4.0%を上回る可能性があり、早期利上げ観測が再浮上する可能性もあります。また12日発表の米11月ミシガン大学消費者信頼感指数は72.0と、10月実績の71.7から上昇が予想されています。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、11月12日にオプション取引に係る特別清算指数(SQ)算出、一方、海外は、11月8日に中国共産党中央委員会第6回全体会議(6中全会)(~11月11日)、11日に欧・欧州委員会(EC)が経済見通しを発表、米・債券市場は休場(ベテランズデー)、中・「独身の日」など。」とコメントしました。



10月22日週	10月29日週	11月5日週	11月12日週
¥28,804.85	¥28,892.69	¥29,611.57	¥29,609.97
-22.4%	5.1%	42.6%	-8.0%

先週の日経平均は、高値 29750 円(11 月 9 日)・安値 29040 円(11 月 11 日)と推移、3 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、週初、米国での新型コロナウイルス感染症治療の飲み薬の開発進展や議会下院が 1 兆ドル規模のインフラ法案を可決したことから米株の上昇を追い風に上値目標値手前まで上昇しましたが、10 月米消費者物価指数(CPI)が市場予想を大幅に上回り、インフレや早期利上げへの懸念が再燃したことで米国債利回りが幅広い年限で急上昇し下値目標値を達成、ただ、週末 12 日のオプション 11 月物の特別清算指数(SQ)のための「買い支え」の相場操縦が見られたため、週間ベースで-2 円安と、週前半と後半で乱高下するも結果的にはほぼ横ばいで終了しています(先週予告していた上値メド 29899 円~30496 円(+2%かい離)//下値メド 29072 円~28490 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、猶予で 11 月 2 日までに 30000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30500 円大台替えで仕切り直し、逆に、29000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、10 月 15 日に 29000 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、10 月に 29000 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、中期長期の強含みは変わりませんが、短期の方向感がなくなったことで目先は乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 36565 ドル(11 月 8 日)・安値 35915 ドル(11 月 11 日)と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米国での新型コロナウイルス感染症治療の飲み薬の開発進展や議会下院が 1 兆ドル規模のインフラ法案を可決したことを追い風に上値目標値手前まで上昇しましたが、10 日発表された米国の 10 月消費者物価指数(CPI)が前年比+6.2%、同コア指数は前年比+4.6%と市場予想を上回ったことで早期利上げの思惑が再び強まったこと、さらに、11 月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値が予想に反して低下したことで下値目標値を達成、週間ベースで-227ドル安と 6 週間振りに反落して終了しています(先週予告していた上値メド 36579 ドル~37310 ドル(+2%かい離)//下値メド 36002 ドル~35281 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、11 月 8 日に 36500 ドル大台替えで仕切り直しが入りましたが、11 月 11 日に逆に、36000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。35500 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、36500 ドル大台替えで仕切り直しが入ります。中期の方向を示す月ベースでは、10 月 15 日に 35000 ドル大台替えで仕切り直しが入り、11 月 1 日に 36000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 17 日間、11 月 18 日までに 37000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、35000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、10 月に 35000 ドル大台替えで仕切り直しが入り、11 月に 36000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 ヶ月、従って、12 月までに 37000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、35000 ドル大台割れで下落スタートとなります。

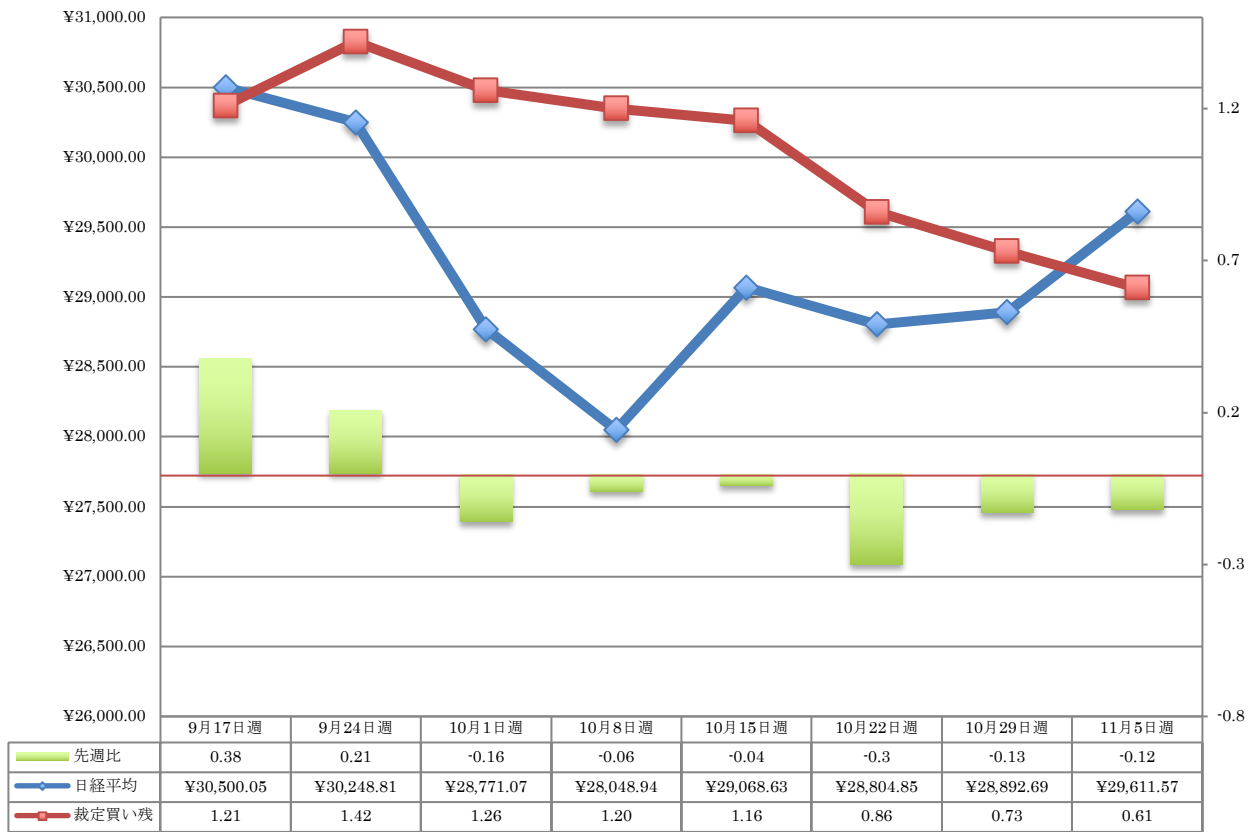
これで短期↓、中期↑、長期↑となり、中・長期の強含みは変わりませんが、短期が弱含みとなり、目先、乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 114.30 円～112.70 円(先週予告していた上値メド 114.31 円～115.45 円(+1%かい離)//下値メド 113.13 円～111.99 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し、実質 3 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1608～1.1431(先週予告していた上値メド 1.1624～1.1740(+1%かい離)//下値メド 1.1496～1.1381(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、実質は 3 週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、131.42 円～130.21 円(先週予告していた上値メド 132.20 円～133.52 円(+1%かい離)//下値メド 130.72 円～129.41 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、3 週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ドル>ユーロが実質 3 週連続で継続しています。オーストリア中央銀行のホルツマン総裁が「2019 年の成長軌道を回復するには 2 年を要する可能性がある」との見方を伝えたことやドイツで新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最大となり懸念が広がる一方、米国の予想以上のインフレ加速もありユーロ売り・米ドル買いの他、リスク回避的なユーロ売り・円買いも観測されたかたちです。

## <裁定買い残・裁定売り残>

6 週連続減少、6 週間で 8133 億円減少しています。菅首相が総裁選辞退を発表した 8 月 30 日週～9 月 20 日週までの 4 週間で+9451 億円の急増で投機筋の外国人による株価吊り上げが行われる一方、自民党総裁選で岸田首相が勝利した 9 月 29 日からは逆に、6 週連続減少となったかたちです。「選挙相場」を支えるための 11 月 2 日までの郵政株(海外売り出し 25%)売り出しで外国人買いのお膳立てを行いました。先物相場の 7 割を占める外国人は 6 週連続売りの一方、現物を売買する外国人は 5 週連続の買い越しで、5 週間の買い越し額は 2 兆 7629 億円と対照的な動きをしています。いすれにしても現政権のバックには財務省が存在していることを示す現象かと思われま。一方、「裁定売り残」は、前の週比+54 億円増の 58 億円と微増ながら 4 週間振りに増加。昨年のコロナショック以降、「裁定売り残」の縮小、つまり買い戻しによる日経平均の吊り上げが行われてきたことを示していますが、ほぼゼロとなったことで、今後は「いつ本格的な売り崩しに進むのかを見極める段階」と思われます。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

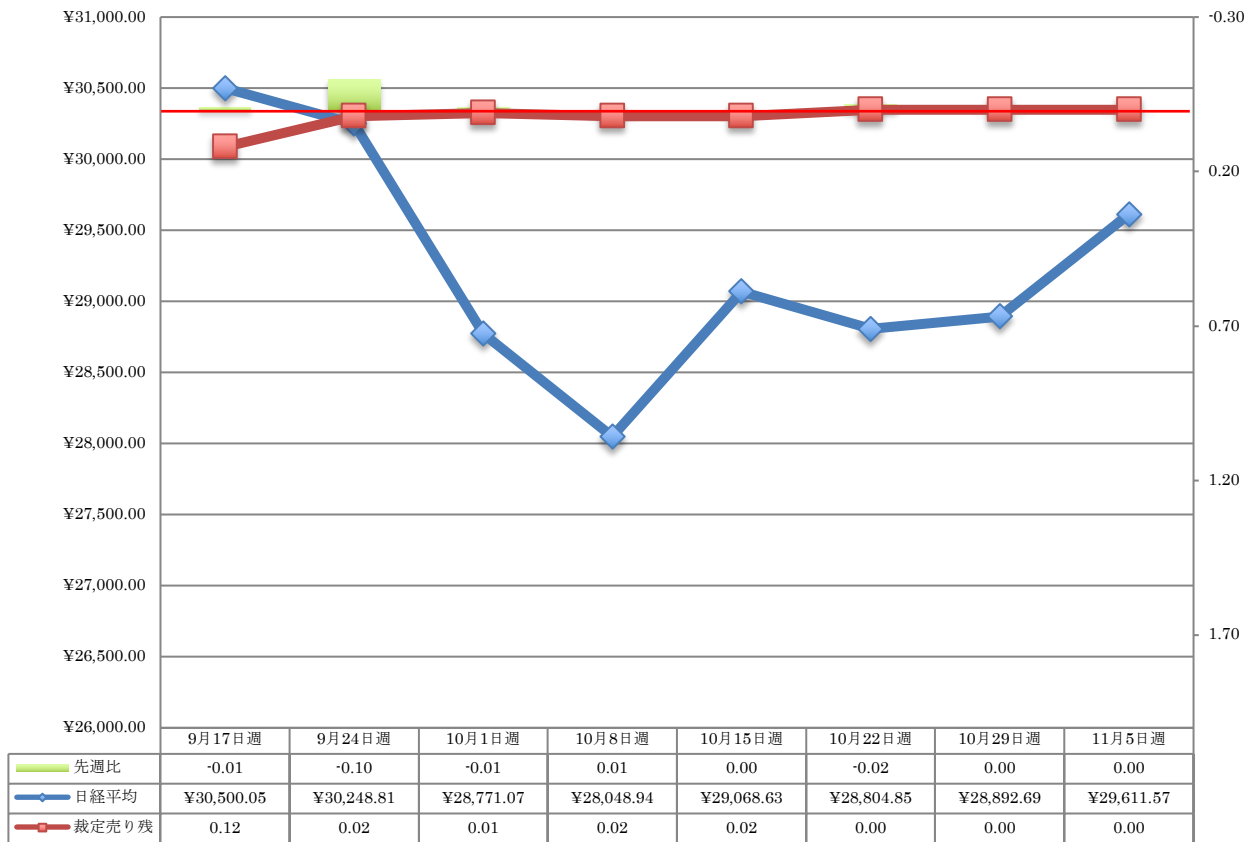
裁定買い残と先週比



10月15日週	10月22日週	10月29日週	11月5日週
¥29,068.63	¥28,804.85	¥28,892.69	¥29,611.57
1.16	0.86	0.73	0.61
-0.04	-0.3	-0.13	-0.12

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



10月15日週	10月22日週	10月29日週	11月5日週
¥29,068.63	¥28,804.85	¥28,892.69	¥29,611.57
0.02	0.00	0.00	0.00
0.00	-0.02	0.00	0.00

単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は軟調相場が予想される週となります。今週(11/15~11/19)の相場を占う『RU-RD 指標』の相場を占う11月5日週が-35.5%と2週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が予想されますが、前の週が本来急落調整に警戒すべき週ながら週末ミニSQのための「買い支え」の相場操縦が見られたことで、今週はその反動の急落調整があるかに注目です。特に、来週(11/22~11/26)の相場を占う11月12日週が+22.4%と3週間振りにプラス圏に浮上したことで、急反発が予想される週となることから、仮に、今週、急落調整が起きた時は短期的には買いチャンスとなりそうです。前の週、『ミニSQのための「買い支え」の相場操縦』は12月メジャーSQに向けて株価を下げさせないとする先物主導の投資家の「買い支え」だったのかを今後、見極める段階かと思えます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が21年10月1日週-14.3%→10月8日週-24.3%→10月15日週-27.1%→10月22日週+5.7%→10月29日週+1.4%→11月5日週-8.6%→11月12日週+4.3%と、前の週と異なり、プラス圏に浮上しています。先週、『このまま「-40%以下の下限ゾーン」に向けて下落するのか、それともこれまでのように0%前後で再び行ったり来たりするのか。これまでは「衆議院解散・総選挙」のアノマリーで株価を下落させないような買い支えが行われていたことで同指標は「-40%以下の下限ゾーン」目前で下げ止まっていたが、「選挙相場」終了でそれがどのように変化するのが注目されます。』と指摘しましたが、「0%前後で再び行ったり来たりする」膠着状態がまだ続いていることを示したかたちです。以前から指摘してきたように、長期的にはこの膠着状態が終了すると先送りされてきた『同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込む近未来』が待っていることを忘れないことです。

今週は、経済指標では、国内は、11月15日に7-9月期国内総生産(GDP)速報値、17日に10月貿易収支、9月機械受注、19日に10月全国消費者物価指数、一方海外で、11月15日に中国10月鉱工業生産、中国10月小売売上高、米11月ニューヨーク連銀景気指数、16日に米10月小売売上高、米10月鉱工業生産、17日に米10月住宅着工件数、18日に米11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、などが予定されています。16日発表の10月小売売上高は前月比+1.0%と、参考となる9月実績前月比+0.7%を上回る見通しですが、18日発表の11月フィラデルフィア連銀製造業景気指数は21.0と、10月実績の23.8をやや下回る見込みです。このほかのイベント・トピックスとしては、15日に米中首脳ビデオ会議が開催される予定です。気候問題が主要議題になるとみられますが、中国主席はバイデン大統領を北京五輪に招待する見込みと報じられています。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



11月5日週	11月12日週	11月19日週	11月26日週
¥29,611.57	¥29,609.97		
42.60%	-8.00%	-35.50%	22.40%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 30117 円～30719 円 (+2%かい離)

下値メド 29452 円～28862 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 36743 ドル～37477 ドル (+2%かい離)

下値メド 36191 ドル～35467 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 114.10 円～115.24 円 (+1%かい離)

下値メド 112.99 円～111.86 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1561～1.1676 (+1%かい離)

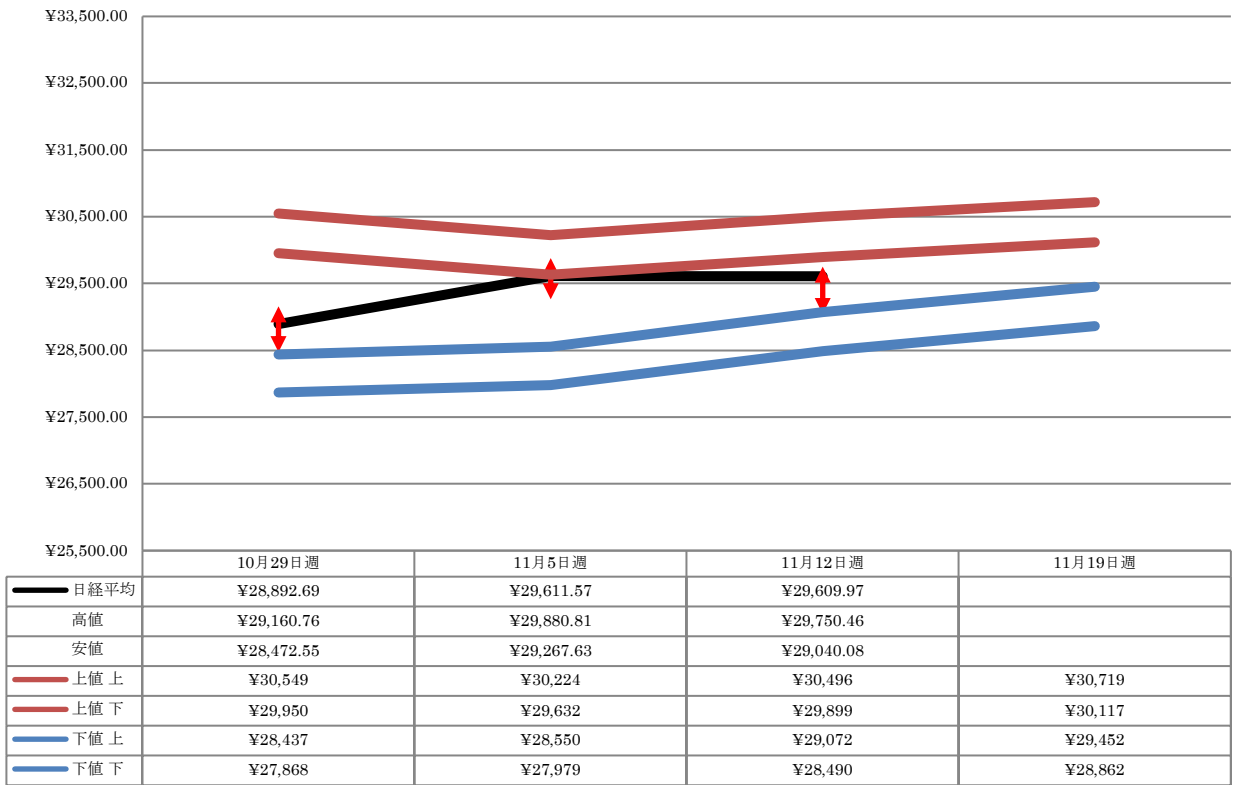
下値メド 1.1430～1.1315 (-1%かい離)

<ユーロ円>

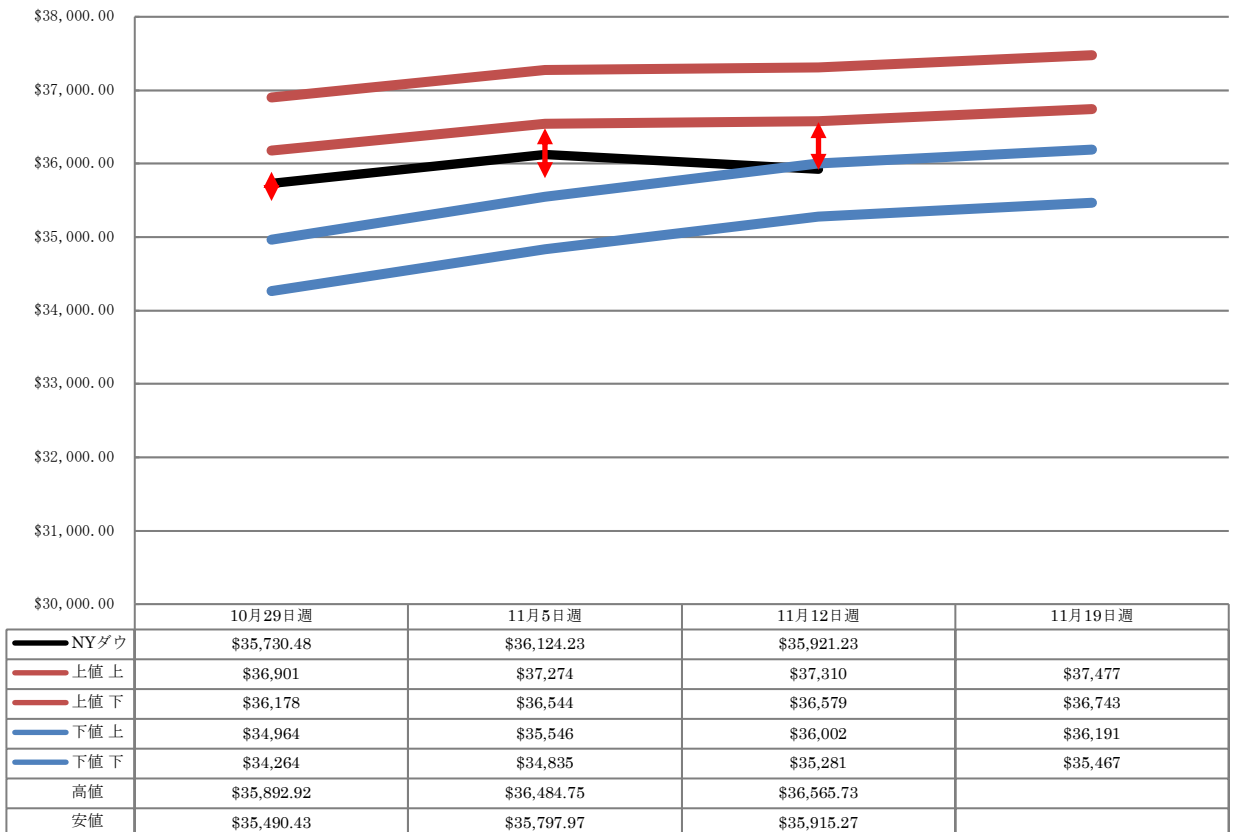
上値メド 131.33 円～132.64 円 (+1%かい離)

下値メド 129.77 円～128.47 円 (-1%かい離)

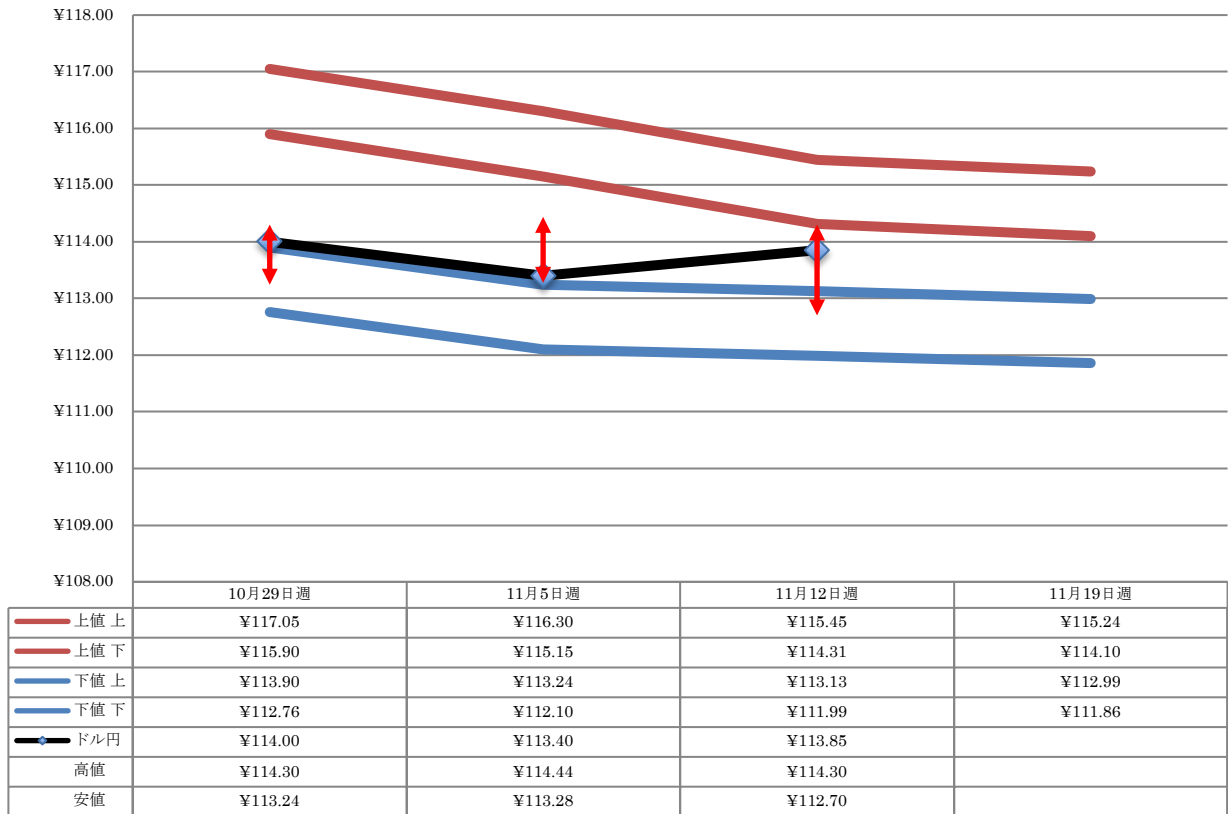
### 日経平均



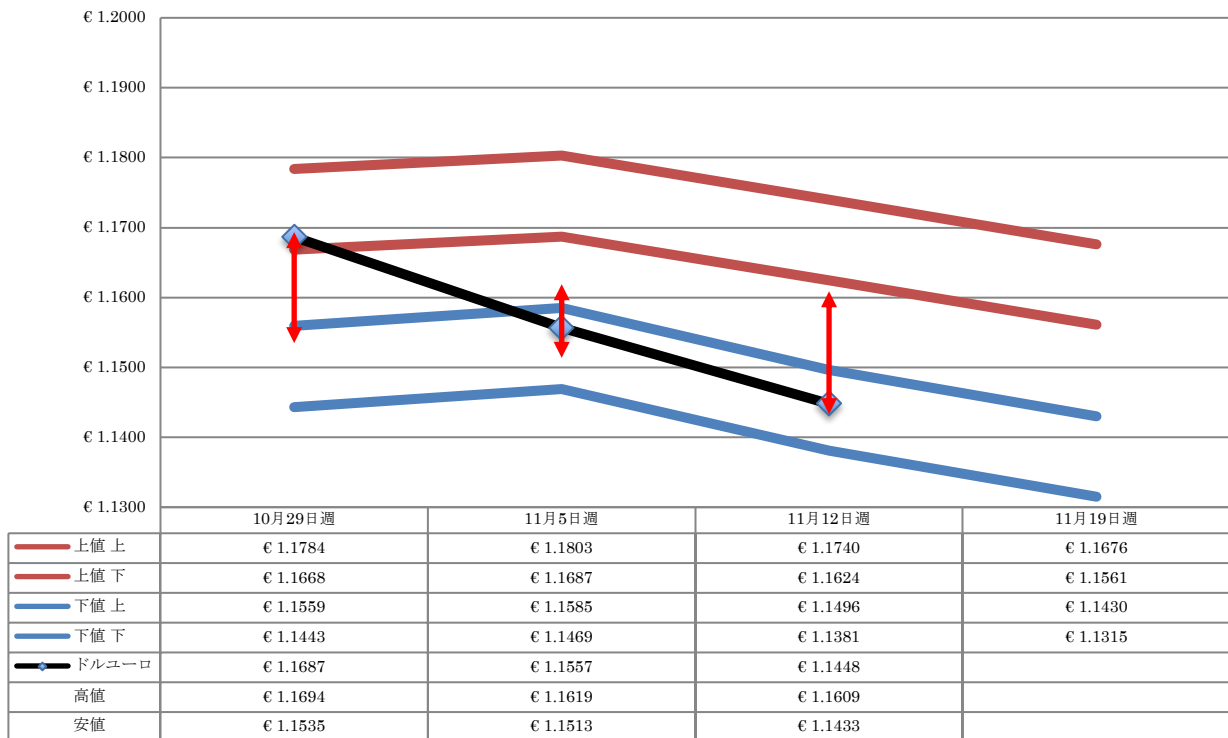
### NYダウ



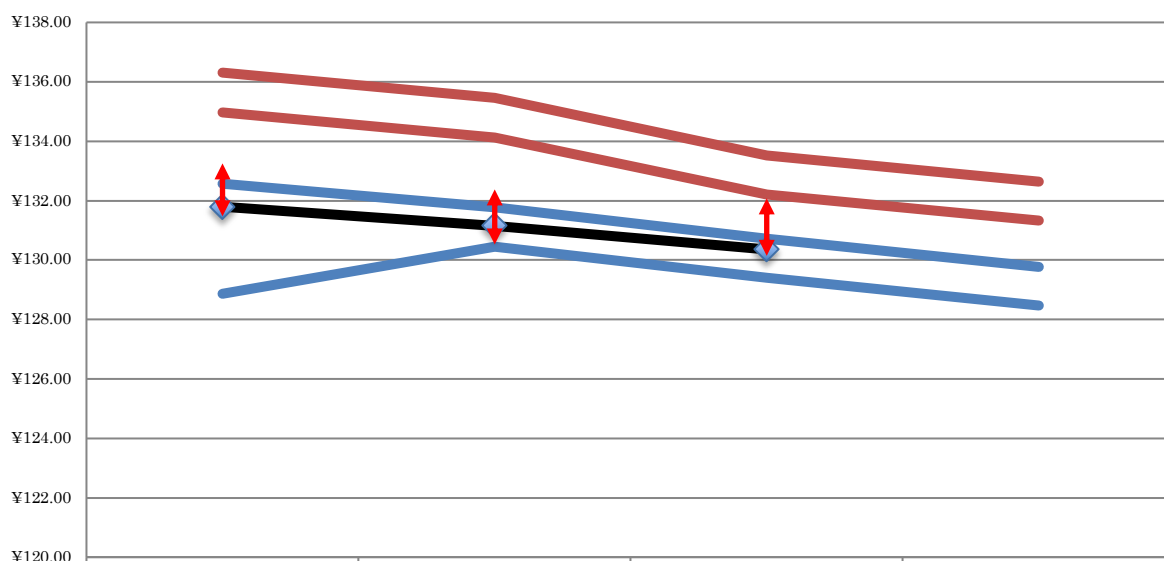
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

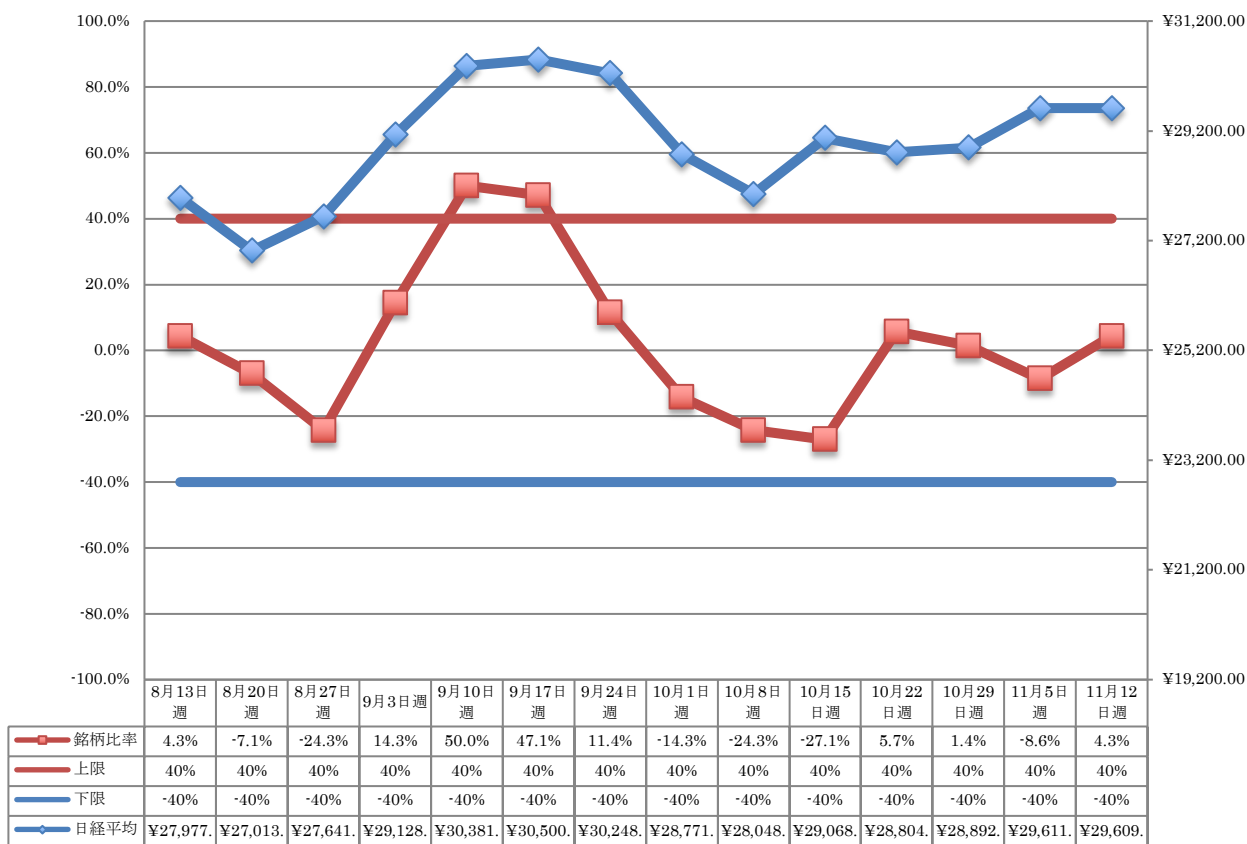


	10月29日週	11月5日週	11月12日週	11月19日週
上値上	¥136.31	¥135.46	¥133.52	¥132.64
上値下	¥134.97	¥134.12	¥132.20	¥131.33
下値上	¥132.57	¥131.77	¥130.72	¥129.77
下値下	¥128.86	¥130.45	¥129.41	¥128.47
ユーロ円	¥131.80	¥131.16	¥130.36	
高値	¥133.25	¥132.39	¥132.07	
安値	¥131.48	¥130.53	¥130.14	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年10月1日週-14.3%→10月8日週-24.3%→10月15日週-27.1%→10月22日週+5.7%→10月29日週+1.4%→11月5日週-8.6%→11月12日週+4.3%と、前の週と異なり、プラス圏に浮上しています。先週、『このまま「-40%以下の下限ゾーン」に向けて下落するのか、それともこれまでのように0%前後で再び行ったり来たりするのか。これまでは「衆議院解散・総選挙」のアノマリーで株価を下落させないような買い支えが行われていたことで同指標は「-40%以下の下限ゾーン」目前で下げ止まっていたましたが、「選挙相場」終了でそれがどのように変化するのが注目されます。』と指摘しましたが、「0%前後で再び行ったり来たりする」膠着状態がまだ続いていることを示したかたちです。以前から指摘してきたように、長期的にはこの膠着状態が終了すると先送りされてきた『同指標が「-40%以下の下限ゾーン」に落ち込む近未来』が待っていることを忘れないことです。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。